



作文2部

ばあばのごはん

横浜市立横手南小学校 四年 山^{やま}岸^{ぎし}美^み葵^き

私は、ばあばが作るごはんが大好きです。ばあばとは、お母さんのお母さんのことで千葉県に住んでいます。ふだんはなかなか会うことが出来ないけれど、長い休みの時は二週間以上とまりに行っています。

ばあばは料理が上手で何でもおいしく作ってくれます。ばあばが作ってくれる料理の中でも、特にちゃんむしが大好きです。かつおぶしのだしのいい香りがして、とてもなめらかで、お店の味よりおいしいと私は思っています。ばあばは一回ごとの食事の大切さをいつも話してくれます。そのつみ重ねがけんこうのもとだと教えてくれます。千葉のおじいちゃんとおばあちゃんは、八十才をこえていくけれど、毎日元気にくらしているのではあばが教えてくれる通りなんだなと思いました。

私のもう一人のおばあちゃんである盛岡のおばあちゃんはお父さんのお母さんですが、お父さんとお母さんが結婚するずっと前に亡くなっているので、私もお母さんも会ったことがないです。

盛岡のおばあちゃんも料理が上手だったそうです。もともとは左利きだけど、右手も同じように使って料理などしていたそうです。

お父さんは、

「子どものころ、おばあちゃんが作ってくれた料理を、また同じ料理かと思うこともあったよ。でも、今はなつかしくて、また食べたいなあと思っても、もう食べられないんだなあ。」

と言うことがあります。たまにお父さんが作ってくれる煮物や炊きこみごはんは、おばあちゃんの味なのかなと思ったりします。

「おばあちゃんに料理の作り方を教わったの。」
と聞くと、自分の味覚とか、にょいの記おくでこんな感じかなあと思ってた作っていると話してくれました。

お母さんは、

「お父さんが育った、盛岡のおばあちゃんの味を食べてみたかったなあと思うし、おばあちゃんのとく意料理をいろいろと教えてもらいたかったなあと思うよ。」

と話していることがあります。私も盛岡のおばあちゃんに会いたかったし、一緒に料理を作りたいなあと思いましたが。

千葉のばあばとお母さんが作る料理の味はよくにっています。お母さんは、

「ばあばの料理で育ったんだから当たり前でしょ。」
と言います。私も大人になったら、お母さんの味になるのかなあと考えました。

今年の夏休みも、千葉へとまりに行ってきました。私もばあばの味をしつかり覚えることができるように、お手つだいをがんばってこようと思います。